

第4回乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議 議事録

■日時 2016年12月6日(火) 13:30-15:30

■場所 市役所分館3階大会議室

■委員

清水義次、泉英明、藤村龍至、長谷川浩己、山田高広

企画財政部(企画課 岡田)

経済振興部(商工労政課 畔柳、観光課 雑賀)

都市整備部(都市計画課 木下、乙川リバーフロント推進課 鈴木)

■事務局

乙川リバーフロント推進課 香村

NPO法人岡崎まち育てセンター・りた 天野

1. あいさつ

>主催者あいさつ

[乙川リバーフロント推進課 香村]

- ・あいさつ
- ・主要回遊動線 QURUWA(くるわ|以下 QURUWA)のアクションプランとセントラルアベニュー(仮称|以下 CA)の設計方針を検討する。

>デザイン会議の位置づけと進め方について

[りた 天野]

- ・資料の訂正。レジメ:第3回→第4回。
- ・資料1によって確認。
- ・参加された市民向けにデザイン会議の位置づけを説明。
- ・デザイン会議のメンバーの意見を聞いてもらうために会議を公開している。市民からの要望や意見を伺う場所ではない。ただし要望に対しメンバーの過半数の同意を得られた場合には意見を伺うこともある。
- ・市民からの意見を伺う場所として、CAについては12月10日(土)の「QURUWA FUTURE VISION(中央緑道等基本設計ワークショップ|以下 QFV)」、アクションプランについては2月18日・19日の「まちのトレジャーハンティング@岡崎」を紹介。
- ・デザイン会議、官民連携調整会議、推進会議の関係を説明。
- ・前々回の市民からの提案を受けて、席次の用意、マイクの利用、発言の際に挙手を行うことを説明。
- ・席次の確認。

2. 関連事業の進捗について

[りた 天野]

(1)第3回デザイン会議以降の関連事業の進捗報告

- ・11月6日:QFV DAY2
 - ・参加者属性(役割)別に班に分かれ、活用イメージを整理。
- ・11月8日:第4回推進会議
 - ・設計方針およびQFV、既存利用団体へのヒアリング、周辺住民の意見について乙川リバーフロント推進課より説明。

- ・順次利用団体へのヒアリングなどを進める。
- ・11月10日：QURUWAの[3-2.旧東海道西側エリア]の周辺部会
 - ・りぶら周辺の公共空地の利用条件について確認。
 - ・課題：りぶらの利用者は多いが街に出ていかない。
 - ：広場やプロムナードなどの公共空地はあるが、使われていない。
 - ・基本的にルールに則れば使えることを確認。
- ・11月13日：連尺あきんどルネサンス（歩行者天国）
 - ・飲食店や商店の軒先など民間事業者と協力して実現。定例化を模索。
- ・11月13日：森、道、市場×Snowpeak Business Solutions
 - 「アウトドアオフィス体験会＋スマートBBQ」@籠田公園
 - ・創造的な公園利活用を誘発する新たな可能性と課題を検証。
- ・11月15日：第3回官民連携調整会議（※詳細は後述）
- ・11月30日：家守table
 - ・まちを使いこなす新しい担い手による作戦会議を実施。

（2）第3回官民連携調整会議の報告

[藤村]

- ・乙川リバーフロント地区まちづくりの関係14課にCAの説明と意見聴取。
- ・歴史まちづくりとの連携
 - ：籠田公園の中にある歴史遺構について考慮するように提案があった。
 - ：発掘調査の結果を受けて検討する。
- ・プロモーション戦略の調整
 - ：観光課、100周年記念事業推進課、都市計画課で分科会実施を検討。
- ・まちなか空間活用戦略
 - ：QURUWAアクションプランで検討。

3. QURUWA アクションプランの策定に向けて

[りた 天野]

- ・資料2によって確認。

（1）策定プロセスイメージについて

[りた 天野]

- ・各エリアの将来像(エリアビジョン)とグランドスケジュール(5カ年)、推進体制の骨格を検討。
- ・先行エリア(2.CA、3-1.旧東海道東側、5.乙川)は現行の計画やプロジェクトを下敷きに検討。
- ・2月18日、19日に開催予定の「まちのトレジャーハンティング@岡崎」にて、専門家と地元のキーパーソンや市民などで構成される参加者でエリアごとに5つのグループを作り、各エリアの将来像とプロジェクトイメージについて具体化する予定。

（2）各エリアの将来像とグランドスケジュール、推進体制に関する意見交換。

>1：駅前エリア

[りた 天野]

- ・現在、北東街区の事業者を募集中。
- ・駅の改修は未定。

>2: CA エリア

[山田]

- CA を QURUWA を回遊させるための背骨と捉え、CA に限ったデザインにしない。
- 周辺エリアに新たな産業を輩出する装置として、ここから人が滲み出すイメージが必要。
- QFV を行いながら市民のイメージを集めて設計に落とし込んでいるが、使うだけでなく管理することと、仲間を増やすことを検討する必要がある。
- QFV を通して実際に CA で何かやってみたい人が出てきた。2017 年度は、実際にやってみる等の社会実験、担い手を集めたチームづくりや、どういう事業をやっていくのか検討していく予定。
- 今盛り上がっていても、完成までモチベーション保つのが大変だと思う。
- グラウンドスケジュールに法人化やファンドレイジングなどを取りいれているが、事業開始までどうするのか今後検討していく。
- 管理の部分では、より使いやすくするために条例の見直し、マネージメントを公民連携で行うなど、マネージメントの体制を 2020 年以降に向けて構築する必要がある。

[長谷川]

- CA だけでなく、QURUWA 全体がオープンスペースを多く抱えている。
- オープンスペースの維持は建築物の維持とは異なり、植物などの生き物も含むので、ケアしていくという感覚が必要。
- スノーピークやパタゴニアのような企業理念と結びつけることを検討してはどうか。
- 植物で言えば、街路樹や河川敷のヨシなどをどういう状態にしておきたいのか、まちにとって生物多様性という観点からどうあるとよいのかなど、まちの資産としてイメージを共有することが必要。
- CA の管理の問題を QURUWA 全体の管理の問題にうまく組み込めると、QURUWA 全体の中の CA として位置づけがはっきりできると思う。

[りた 天野]

- 現状維持をする場所と、変えていく場所を調整していく必要がある。

[長谷川]

- 籠田公園でやりたいことや河川敷でやりたいことのように、CA の部分によって異なるものをうまく組み合わせると、アクティビティのバリエーションが飛躍的に増える。

> 3. 旧東海道エリア

[りた 天野]

- QURUWA 上のあるエリアのことを話しながら、他のエリアへ繋げていくというのが本質的なところ。
- CA を北上した先の「3.旧東海道エリア」の将来的な展開についてはどうか。

[清水]

- このエリアではまさに今、リノベーションまちづくりの具体的なプロジェクトが、家守構想に基づく事業として民間の投資により幾つかできている。
- このエリアに入っているコンテンツは面白いものが多く、さらに今まで岡崎になかったコンテンツが増えたことで、来る客層が変わってきている。
: 例えば wagamama house では、子供連れのお母さんが昼飯時に大勢来ている。

- ・まちが公共投資に先駆けて変わり始めているエリアである。
- ・ 11月13日に連尺あきんどルネサンスと籠田公園のBBQイベントが同時に行われた。
 - ：これを見て、連尺通り沿いに QURUWA の一部が実現しているように思った。
 - ：連尺通りだけではなく二七市通りとも繋がり、一隆堂喫茶室の周辺道路に椅子とパラソルが広がり、豊かな公共空間が実現した未来の QURUWA の姿が垣間見られた。
- ・「3.旧東海道エリア」にまちのコンテンツの集積ができると、乙川からここまでの約 300m は歩いて来るといった感じがした。
 - ・ 300m 単位で固まって、小さなエリアを集積させると、そのエリア同士を歩く動機作りになる。
 - ・ 連尺通りや二七市通りからシビコまでの道について、車での良いアクセスを確保したまま、尚且つ、QURUWA に入ってきたら車を気にせず歩けるような交通政策を打つことが非常に重要。
 - ・ CA は、そのまま北に向かうと市民会館があり、その手前は二七市通り、そして連尺通りが西側にある。籠田公園で行き止まるのではなく、歩行者の足が自然とそちらにむかうようになるのが重要。
 - ・ 通りと繋がっている敷地、店や空き地や駐車場の使い方が重要。
 - ・ 中央緑道や籠田公園だけをよくなるのではなく、それらに接している場所や近くにある遊休不動産を公共投資と結びつけて、良いエリアを作ることを検討すべき。
 - ：沿道の方々には、特にこの動きに関心を持って、いろんな場面で積極的に参加して欲しい。
 - ・ 駐車場を整備しながら人と自転車の交通を、どのように実現していくのかの交通政策の検討が、今後のデザイン会議でも重要になる。

[山田]

- ・ 市民会館でイベントがあると籠田公園地下駐車場に車を停めて歩く人が 1000 人単位でいる。
 - ：現状、文化ロード（市民会館と籠田公園地下駐車場の道）に飲食店等がほとんどないのが非常にもったいない。
 - ：籠田公園地下駐車場に停めて市民会館への行き帰りの楽しみをつくるべき。ここは乙川リバーフロント地区ではないが、リノベーションまちづくりとして賑わいを伸ばすことも検討したい。
- ・ 連尺通りには軒先空間がほとんどない。
 - ：歩道は公共の土地ではあるが、地域の人が気持ちよく使える方法について、車道をどう使っていくかも含めて考えていく必要がある。
- ・「3-2.旧東海道西側エリア」のりぶらと連尺通りをどう繋げるかも課題。
- ・ 市民の心象風景といってもよいシビコが半分以上空いている。この遊休不動産をどうしたらよいか検討すべき。
 - ：並大抵のことでは空きテナントは埋まらないし、家賃も払えない。
 - ：「3.旧東海道エリア」でシビコは大きい問題。シビコにとってのメリットの検討も含めて、今後、家守 table で取り組んでいきたい。

[清水]

- ・ 連尺通りは旧東海道なので、歴史的なまちが残っているのを見ていると、軒がだいたい 3 尺（馬がいる場合は 1 軒）両側から出ている。
 - ：軒先のルール化を、もちろん二七市通りも含めて歩行者空間化、車路を狭む通りの使い方、ストーリーデザインについて検討することが大事。
- ・ 旧東海道はさらに西側に延びて、途中から北上していくが、東海道という歴史性を取り入れるように考えていくことが面白い。

- ・「3.旧東海道エリア」でのコンテンツの集積が3-4年かけてつくられ、ちょうどこの時にCAが完成する。これからの3-4年の積み上げが、通りが活性化する鍵になる。
- ・シビコの再生については重要度が高く、さらにシビコの西側の公園からりぶら東側の大きな公共空間（駐車場）へとつながる場所は、岡崎の中の集客力としての一等地でもあるが、残念ながら駐車場にしかなくない。このあたりもシビコ再生に続いて、暫定利用でりぶらにつながる賑わいをどうつくっていくか検討すべき。
 - ：暫定利用が上手く続き、活性化すれば民間利用が可能になる可能性がある。
- ・りぶらは大変立派な公共施設だが、外部空間は利用されておらず、もったいない。
- ・りぶらの中の利用と共に、りぶらの外部空間利用も視野に入れた「3-2.旧東海道西側エリア」として、伊賀川に繋がっていくところや、シビコという今あるものを活かし、いかに居心地の良い空間を作れるかが重要。

[りた 天野]

- ・りぶら周辺の公共空間やシビコの西側の公共空間（ジャズストリートや朝市での利用）を使えるのかが周知されておらず、どうやったら使えるかわからなかったことも原因。
- ・官民連携調整会議を経て分科会という形で公共空間を所管している課を集め、企画課が主導して条件整理を進めている段階。
- ・りぶら周辺の公共空間を、実際に市民が使えるのか、どういった利用が望ましいのかについてはどうか。

[企画課 岡田]

- ・行政的にはすでにルールがあるので、りぶら周辺の公共空間は使用可能。
 - ：しかしルールの内容がそれぞれの公共空間で異なるので、具体的な事例で対応したいというのが対応課の話。
- ・りぶらと周辺のつながりが悩ましいポイント。
 - ：QURUWAに来る人のベクトルとしては、中央緑道から籠田公園、岡崎公園から籠田公園といった外向きの方向があるが、りぶらを訪れる人はりぶらのみを目的地とする内向きの力しか働いていない。りぶらに来た人の気持ちをいかに外向きに変えるかが課題。
- ・籠田公園から西向きにベクトルを変えていく時に、目的地をりぶらに向けるのではなく、りぶらのオープンスペースに向けるようにしたい。
 - ：りぶらを訪れる人をどのようにQURUWAへ流すのか、東から西側に向かう目的地はりぶらなのかりぶらの周辺になるのかも含めて検討していくべき。

[りた 天野]

- ・例えば、子供を連れて出る時は、家を出る時にはすでに、行き先を含めた行動イメージが決まっている。最初の行動イメージに含まれていないと難しい。

[長谷川]

- ・りぶらを訪れた人が外に出ないことについては様々な原因が考えられるが、建物の内と外というハードルを超えるのは難しい。
 - ：内と外の出入りの抵抗感をどれだけなくすことができるかについては、りぶらの認識自体を「りぶらゾーン」として捉えることで、りぶら周辺のエリアが認識されるとよい。
- ・りぶらの外を歩いている人も、何か内側から出てくる動きが見ることができれば楽しめる。

[山田]

- ・すでにりぶらの中には、図書館や **Oka-Biz**(オカビズ)、市民活動センターなどがある。
- ・りぶら周りの低未利用地に、りぶらの延長でどのように人々の活動を滲み出させていくかが大事。
- ・以前はりぶら前の公共空間に弁当屋が来ていたが、それにより、りぶらからそこへ買いに出る人がいた。りぶら周辺の公共空間にコンテンツを集積させていくことが大切。

>4. 伊賀川エリア

[りた 天野]

- ・りぶらから出て伊賀川に行くと岡崎公園に繋がっていく部分もあるが、伊賀川の方もまだ手薄なところがある。
- ・岡崎公園には観光客が多数いるが、りぶら方面に回遊しないという現状がある。そこをどう繋いでいくのが課題。
- ・岡崎公園からいかに回遊させるのか、イメージを共有ください。

[観光課 雑賀]

- ・岡崎の中では岡崎公園と八丁味噌蔵が二大コンテンツになっていて、岡崎公園は岡崎の観光拠点であるが、魅力を増大するには、**QURUWA**の方にも観光客が流れていく仕掛けが必要。
：岡崎公園の指定管理者にもそのような活用をお願いしていく。
- ・また、公園と隣接するかわまちづくりの活用と合わせて考える必要がある。

>5. 乙川エリア

[りた 天野]

- ・乙川、伊賀川が今後どのように使われていくのか等のかわまちづくりについて、おとがワンダーランドのことも含めてお聞きしたい。

[泉]

- ・おとがワ！ンダーランドを今年度の夏に開催。
- ・河川空間でのまちづくりで、使われていない大きな空間をどのように使いこなすかが課題のため、建物の中の使い方とは異なる観点が必要だった。
：スポーツアクティビティや水上の **SUP** やスケートボード等。
：飲食関係の事業者についても、ケータリングカーが集まった場に多くのお客さんが来たわけでもないが、一方で、殿橋のたもとで行った殿橋テラスというバーは、眺めもよく評価が高かった。
- ・飲食やスポーツの事業者が、今後日常的に事業を行っていけないか検討していく。
- ・今後は河川空間に加えて、太陽の城跡地という広い遊休不動産について、今回参加いただいた事業者以外にも、より大きな企業に企業ヒアリングを行い、事業イメージを作っていく。
：太陽の城跡地には宿泊施設とスポーツアクティビティの基地になる場所を検討。
- ・また、河川空間であったので、安全基準が非常に厳しかった。
：これについては河川管理者である愛知県と話し、乙川の水位が規定を超えた場合、河川空間のものを決められた時間内に撤去することになっていた。
：殿橋テラスのように水面から離れた場所であっても、乙川上流の水位による判断で **3** 回ほど撤去した。

- ・観測所が上流にあるので、実際におとがワ！ンダーランドの開催場所では水位が上がっていなくても上流で水位が上がっていれば撤去を命じられた。撤去の手間や天気、水位で営業できないリスクを考えると、現状では民間企業者が参加するのは厳しい。
- ・進出したいという事業者や企業を掴んでいくために、実情に沿った水位の管理や安全基準の見直し等が必要。

>QURUWA 全体

- ・乙川以外も含めて、QURUWA 全体の公共空間について、各メンバーから具体的な運営管理のイメージが出てきている。
：例えばりぶら横の暫定利用、伊賀川とりぶらの関係の話や、駐車場の配置を交通政策と連動していけないか、など。
- ・QURUWA 上のそれぞれのエリアが個別に社会実験を行うよりも、日にちを 2,3 日決めて、QURUWA 全体の社会実験を行う必要があるのではないか。
- ・先ほど出たように、「3-1.旧東海道東側エリア」で軒先空間が使われ、乙川でもアクティビティがあり、東岡崎駅前にも事業が展開し、自転車ですれを回れるというような、将来このまちがどうなるのかという全体像を市民が体験できる日を設定してはどうか。
：2018 年から CA が工事に入るのであれば、2017 年度がチャンス。

[りた 天野]

- ・来年度 QURUWA DAY、QURUWA WEEK を設定することを検討する。

>1：駅前エリア

[りた 天野]

- ・回遊性の起点にもなる東岡崎駅とどうつながっていくのか、について意見をください。

[藤村]

- ・作業部会を設定して、拠点整備課とペDESTリアンデッキの整備部会を行っている段階。
- ・駅前広場とペDESTリアンデッキの整備を実施中で、双方が絡むイメージで北東街区の事業者の募集を実施中。
- ・駅から出てきた人が徳川家康公像に向かって歩いていき、そこから QURUWA に向かって歩いて行く想定。
- ・自分はデザインコーディネーターという立場で関わっているが、地上部の交通広場のデザインと、人工地盤上のデザインと、そこから降りた時のデザインがバラバラなのが課題。
：御影石を使うならば統一する、駅の出口から徳川家康公像が見えたり川が見えるなどルールを作成中。
：徳川家康公像に光を当てる案もあるが、その光の方向なども含めて調整中。
- ・北東街区の事業者が決まらないと決められない部分もある。
- ・観光バスが着いた時の、入り口のデザインが重要。
- ・QURUWA 全体につながる北西側のイメージについては、名鉄のビルの建て替えと合わせていずれ協議が必要だが、名鉄は具体的なイメージをお持ちでないので、これは今後の課題。

>歴史まちづくりとの関係

[りた 天野]

- ・歴史まちづくりの観点から、旧東海道や二十七曲り、岡崎城郭などいろいろなことがある中で、どういいう連携があるか。

[都市計画課 木下]

- ・乙川リバーフロント地区は、全国でも屈指の総構えをもった岡崎城跡であるが、実際に遺構として残っているのは、岡崎公園の部分だけ。
- ・エリアの価値を高めていくために、CA、籠田公園といった要素をなるべく見える形で整備をしていく。
- ・総構えを全て復元するのは現実的ではない。現場に遺構があるとよいが、本物である必要があるわけでもない。事業者が活かせるような形で検討。
- ・CAや籠田公園の工事に合わせて発掘も行う。
- ・文化財行政だと保存目的になってしまうが、歴史まちづくりでは明らかになった価値をしっかりと表に出して、観光客目線の理解や促進を進める。
- ・現場に行くと遺構がわかったり、スマートフォンの仮想現実上でわかるなど、やりかたは併用できるので、それが周辺で商売する人と連携できるように検討する。
- ・発掘調査で明らかになったものがあれば、整備の内容を修正していくなど状況に応じることが必要になるかと思う。
- ・乙川リバーフロント地区すべてが総構えに入っているが、リノベーションという方向性を取りつつも、歴史好きだけではなく、子供達に歴史をしっかりと伝えていく。
- ・魅力ある都市空間として、景観や風情を醸し出していくことで、住民も観光客もエリアの価値を共有することを検討していく。

[りた 天野]

- ・本日、かなり具体的な将来像を示しているが、それをもとにエリア将来像を作っていくので、また精査をお願いしたい。

>QURUWA アクションプランの検討

[りた 天野]

- ・次に、QURUWA アクションプランを検討していく。

[企画課 岡田]

- ・先程、長谷川さんから、りぶらの外側を民間に活用してもらい、内から外へ賑わいを出すべきとの意見について詳しく聞きたい。

[長谷川]

- ・りぶらの周辺街区をどうするかということも、りぶらの中の活動が外に滲み出るような賑わいの活用についても両方検討するといいが、後者の方がやりやすいと考える。
- ・外と内のどちらかに使える場所があればよいのではなく、両方にあってよい。
：岩手県で手掛けたオガール広場では、建物の中に会議室があったが、天気良ければ外でも勉強をしている人がいた。
- ・軒下にテーブルがあったり、良いスケールの居場所があったり、あとは外で本を読んでもよいですよ、と投げかけをするだけでもよい。

[山田]

- ・りぶらがりぶらのことだけを検討するのではなく、もう少し外側まで広げた「りぶらゾーン」として考えていければよい。
- ・文化活動や経済活動という点を打てるような場所にしていく。
- ・公共で主導したり、民間のマネージメント能力を育てる必要がある。

4. CA の設計方針について

(1) これまでの経緯

[りた 天野]

- ・ CA の設計方針について確認。
- ・ これまでの経緯について報告。
 - ： 2 回の QFV を実施。
- ・ >QFV について
 - ・ CA を単体で考えないことを重要なポイントとして設定。
 - ・ 1 回目は籠田公園にテントを張ってワークショップを実施。
 - ： QURUWA の共有と全国で公共空間の新しい使い方をしていく講師の方から事例を紹介してもらい、CA や籠田公園で何が出来るかワークショップで具体的に考えた。
 - ： 親子でバーベキューをする、高校生が通過するので自分たちで寛げる場所を自分たちで作りたい、子連れやお年寄りが休める場所をつくりたい、などの意見が出た。
 - ・ 2 回目は、1 回目で出された 68 の「したいこと」をもとに、オンサイト計画設計事務所から検討方針を発表。
 - ： 遊ぶなどアクティビティごとに分けてどんなことができそうか、それをもとに残すものと移すものの議論があり、加えて自分たちは何が出来るかをワークショップで検討した。
 - ： 日常を楽しめる場所ということをベースに、イベント時もしっかりと使える内容になっていることが評価された。
- ・ 12 月 10 日に三回目を実施予定。

(2) 設計方針の説明

[長谷川]

- ・ 大きな変更部分だけ説明。全体のコンセプトはほぼ変更なく、計画の詳細を詰めている段階。

>A ブロック（籠田公園）

(細かいブロックの説明は省略)

>トイレについて

- ・ 現在 2 つあるトイレを統合する計画。視認性を確保し安全で使いやすい新しいトイレにする。

>ステージについて

- ・ QFV や関係者へのヒアリングなど、様々な意見を聞いて検討中。
- ・ 現状のステージをなくすのではなく、違う形として組み込むように、撤去、移設、再配置を予定。
- ・ 大きなステージが CA の流れを切ってしまうと、かつ、立派過ぎて年に数回しか使えないという状況を改善。
- ・ ステージ機能に特化するのではなく、ヨガやダンスの練習、それ自体が遊び場になるようなステージを計画。
- ・ ステージだけでなく縁台にもなるような、いろんなニーズに対応できるようなことを検討。
- ・ QURUWA の一部として、連尺通りに向けての旧東海道の流れを汲むように配置を検討。
- ・ ジャズストリートの時のステージや観客席、キッチンカーなどの配置も検討。

- ・現状の大きなステージを東と北に分け、2箇所のステージ(縁台)を計画。
 - ：角度を旧東海道に合わせることで、旧東海道が公園に可視化するように見せる。
 - ：それぞれのステージに個性を付け、公園全体を活性化する。
 - ：ヒアリングでも2箇所のステージが同時に使えていろいろできるという賛成意見があった。
 - ：最終的にはどちらか一方に屋根をつけるつもりでいるが、どちらがよいかは検討中。
 - ：イベントのない日常時にも、ヨガやピクニックなどとして、普段から使えるものとして基本設計を提案。
- ＞東側のステージ（縁台）
 - ：観客席を芝生上に作ることで、旧東海道(公園内の通り道)を挟んだ先に屋根下の空間を設けることが可能。
 - ：バックスペースも確保可能。
 - ：夏にまぶしい時間がある。
- ＞北側のステージ（演台）
 - ：芝生のマウンドに差し込む形で場所つくることを検討。
 - ：360度ステージを囲むイベントが可能。
 - ：遊びの場所の一部としても機能。
 - ：東側とは逆で、秋から冬に眩しい時間がある。

＞B1 ブロック

- ・前回より大きく変更箇所あり。
- ・安全に激しい遊びができるように網に囲まれた空間を提案していたが、ビジネスとして使いやすい場所としてポップアップショップやキッチンカーが営業しやすい空間にデザインを変更。
 - ：屋台村のようなビジネス利用ができるように整備。
- ・キッチンカーとイートイン空間で旧東海道を挟むように計画。より歴史的な街区割りと緑道の軸と籠田公園が一体的になっている。

＞B2 ブロック

- ・河岸段丘の高低差と籠田公園地下駐車場への入り口があるので、大階段テラスを提案。
- ・人の動線が途切れない設計。
 - ：ヒマラヤスギを全部取り除くことはやめ、残しつつ眺望を楽しめるように、のんびり過ごせる場所として設計。
- ・眺望について、緑道が拡幅されることにより、現在の車道の上部に人の目線の位置がくる。
 - ：人道橋(仮称)を通して対岸までビスタが抜けるのではないかと予想。
 - ：大階段テラスの一番高いデッキの床が、現状の地下駐車場の入り口の看板の上端くらいになるので、うまく動線と眺望がクリアできるのではないかと予想。

＞B3, 4, 5 ブロック

- ・前回より変更なし。
- ・隣接する結婚式場との関係を考えるなど、詳細について検討中。
- ・このブロックに四天王像を置き、立体的な空中テラスから眺められるように設計。
- ・橋詰広場は車を停められたり、広場になったりする計画。
- ・CAだけでなく、QURUWA全体も含めてひとつのイメージを発信できる場所にしてはどうか。

＞全体

- ・CAと国道一号線との交差点では、人道橋(仮称)から籠田公園までバリアフリーの動線を確保するために、中央緑道の真ん中に横断歩道を通すように関係先と協議中。
- ・移動と滞留がテーマなので、最低幅は2.2mで計画。
- ・歩きながら色々な種類の場所に出くわす、緩やかに歩くことができる空間としてCAをデザイン。
- ・駐輪場は100mに一箇所程度で検討。この程度のピッチならば気軽に歩いて回ることが可能。

(3) 既存ステージ利用者へのヒアリングの結果の共有

[りた 天野]

- ・ヒアリング結果について、乙川リバーフロント推進課から説明。

[乙川リバーフロント推進課 鈴木]

- ・QFVを10月から12月まで3回実施。沿道の方には、度々個別で説明。
- ・籠田公園についてはQFV以前に行われたワークショップの内容も含めて、設計を検討。
- ・実際に籠田公園の過去の使用履歴を見ると、利用は7回-12回/年。毎年使っていただいている方にヒアリングを実施。
 - ：結果、使っていても年間1回程度。使う時間帯としても昼から夜程度だった。
- ・以下、ヒアリングで出てきた意見。
 - ・こだわりがないので、公園にあるものを使っていきたい。
 - ・ステージの高さが少し高い。
 - ・電源、照明、屋根が欲しい。
 - ・大人数の場合は、ステージ前とステージ上を合わせて使いたい。
 - ・東側に移転した場合、イベント時のレイアウトが収まるか心配。
 - ・ステージが芝生なのが気持ちがいい。
 - ・芝生によって制限がかかると使いづらい。
 - ・芝生を傷めないようにするために火が使えない。
 - ・もっと公園が使いやすくなるといい。
 - ・夏祭りでは継続団体の利用が多いが、新しい利用が増えるとよい。

[りた 天野]

- ・現時点で聞いている限りでは、心配な点はあるが概ねステージは移転してもよいという意見が多い。

(4) 意見交換

[清水]

- ・大変素敵なデザインの提案で、とてもワクワクした。
- ・現在のCAを度々歩いて通るが、中央緑道の真ん中の遊歩道の部分を歩いている人を見たことがない。
- ・CAが新しくなることで、震災復興のシンボルロードとしても岡崎市民がいい場所だと思って、日常的によく使われることが大事。
- ・模型を見ている限りでは居心地のいい空間が、いろんなタイプで繋がっていて好印象。

> 国道一号線について

[清水]

- ・滞留や回遊というなかで一番問題になってくるのが、国道一号線をどう越えるのかという部分。長い信号を待ちながら脇に渡ったあと、再度中央に渡るのが非常にストレスになると予想。模型では CA の真ん中に横断歩道を通してはいるが、実際は可能なのか。

[長谷川]

- ・市の方で県警、国と協議中。
- ・中央緑道を歩いてもらうためには、それを真ん中で直接繋ぐ横断歩道が必須。

[清水]

- ・CA が大いに賑わったあとは、国道をまたぐ施策に繋いでほしい。

>駐輪場について

[清水]

- ・人が歩く空間という役割もあるが、岡崎のまちを見ていると、朝晩の自転車の通行量がたいへん多い。中央緑道の左右は自転車も多く通るが、駐輪場はどのように考えているか。

[長谷川]

- ・一箇所 20-30 台の駐輪場を 4 か所程度、籠田公園は 40 台程度、全体で 100 数十台止められるように検討している。

>乙川から籠田公園へのアクティビティ

[泉]

- ・今の中央緑道は緑が非常に多いが、寛げる場所がなく、通過する人が少ない。
- ・今回の設計により、乙川から籠田公園まで行き、そこからさらに先へも行けるようになっているので、普段使いが出来そうで良い。
- ・戦災の区画整理によって、乙川から籠田公園まで軸がある。ちょうど乙川のところに橋詰広場があり、乙川が東岡崎駅の方とつながるアクティビティスポットになる。
- ・籠田公園も芝生と縁側テラスの間で見える見られるという関係があり、アクティビティが生まれやすそうである。
- ・乙川と連尺通りの二箇所がまちに開かれる二本の賑わいの線として存在し、もともとの戦災の整理で作られている CA が、今回の計画によりさらに周りの賑わいの一辺になり良い。
- ・シンボルを物として作るのではなく、アクティビティ自体がシンボルとなるように作ることで、QURUWA でのアクティビティが広がるのでよい。

>デザインシャレットとの関係

[藤村]

- ・昨年学生と行ったデザインシャレットで、来場した市民の投票で一番評価が高かったイメージがウッドデッキと芝生を用いた自宅の延長のリビングのような空間イメージだったが、その時に漠然としていたイメージが、プロの手によって生き生きとしたディテールを伴って実現されているという点もとてもよい。
- ・デザインシャレットでは CA の利活用ということで 3mx3m の区画をどの程度取れるか、という話だったが、イベントは籠田公園に集中する活用方法に変化しており、イベントが街道に集中してしまうのではという懸念点が解消されていてよい。

>周辺との関係

[山田]

- ・籠田公園から連尺通りや市民会館への道との関係を考えて、A1ブロックの北西の角がすっきりしているのがよい。
- ・通常籠田公園へは南から来るイメージが強いが、商店街から訪れる人は西から来ることになる。現状では木やトイレがあることであまり視認できない部分が、提案ではすっきりしていてよい。
- ・人道橋(仮称)と中央緑道の接続する部分を一体的に考えるにあたり、乙川沿いの道路は自動車は通れないように検討してはどうか。
- ・国道一号線との関係で中央緑道が分断されず、橋詰と広場を一体的に使えるようにすることで、エリアとしての使い方ができるように交通のことも検討していきたい。
- ・ステージについては、「メインをサブに、サブをメインに」という考え方で、公園内の休憩するスペースが足りていない・二七市に来て寄り道しない、という課題を解決し、ステージがベンチになるような、多目的で多様な使い勝手のよい状態が望ましいと思う。
- ・デザインシャレットでは、市民会館から龍海院までのビスタラインの提案があり、中間提言に盛り込まれていたが、それも実践されていてよい。
- ・トイレとステージについては、全体でもう少し議論する必要があると思う。

>トイレやインフラについて

[りた 天野]

- ・一通り専門家の意見を頂いたが、その他のチェック項目について私の方から確認を。
- ・籠田公園と橋詰に各1箇所トイレを新設する計画だが、その中間にはいらぬのか。
- ・電気や水道のインフラについてはどうか。

[長谷川]

- ・トイレは籠田公園で1箇所に集約する、もう1箇所はかわしん跡地(アーバンデザインセンター(仮称))に置く。この2箇所に設置すれば300m以内で対応できる。
- ・電気等インフラの関係は、基本的にライン状に入るので、多めに見込んでおけばフレキシブルに対応可能。実施設計で対応できる範囲。

[りた 天野]

- ・トイレは、あればあるだけよいという考えになりがちですが、両端にあればよいことを確認したい。

[清水]

- ・公衆トイレ、つまり行政が設置して管理するトイレはきれいに保つのが難しい。
：QFVに参加した女子高生に「籠田公園の公衆トイレは汚くて怖くて使えない」と言われた。
- ・行政できちんと使える綺麗なトイレを管理するのは大変。
：飲食店やコンビニエンスストアは、マニュアルがあり、店員が1時間に1回程度見回することで維持が可能。
：公衆トイレにおいても、人件費なしでは綺麗なトイレは維持できない。
- ・公共トイレという名称で民間施設のトイレを使わせてもらうことを提案。
：連尺通りで考えても同じであり、まちなかの考え方と一緒に。
- ・当然最低限の数は必要だが、民間で維持管理されることできちんと清掃され、使いやすい清潔なトイレにすることを考えるべき。

- ・籠田公園に新設するトイレは、維持管理はどうしたらいいか、併せて議論する必要がある。若い人は清潔さに対する感覚が敏感なので、管理されていない公衆トイレは使用されず、持て余す可能性が高い。
- ・迷惑施設、公共のお荷物にならないように、女性の意見を聞いて進めることが必要。

>ステージについて

[りた 天野]

- ・ステージの是非の確認。
- ・現状のステージは、シンボリックで非日常的であり、イベント用に特化してしまっている。
- ・CA 全体としてみると終点としての雰囲気があり、QURUWA 上の公共空間として、次のエリアに回遊しにくくしている。
- ・日常的に使える上に、QURUWA への回遊性を生み出せるような今ある提案はよい、との意見を頂いている。
- ・これをもとに次回の QFV に繋ぐ。

[全員]

- ・異議なし。

5. おわりに

[りた 天野]

- ・次回は 1-2 月の間で調整中。市の HP や Facebook で告知。

以上

■配布資料

- ・レジュメ：第 4 回乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議レジュメ
- ・資料 1：乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議の位置付け
- ・資料 2：おとがわプロジェクト | QURUWA アクションプランシート